

SIOS Protection Suite for Linux

パラメーター一覧

v9.0

[Core/パラメーター一覧](#)

[EC2/パラメーター一覧](#)

[IP/パラメーター一覧](#)

[MD/パラメーター一覧](#)

[MQ/パラメーター一覧](#)

[NFS/パラメーター一覧](#)

[Oracle/パラメーター一覧](#)

[PostgreSQL/パラメーター一覧](#)

[Quorum/パラメーター一覧](#)

[SAP/パラメーター一覧](#)

[DataKeeper/パラメーター一覧](#)

Coreパラメーター一覧

下記の表は、Coreパラメータ名とその意味を説明しています。これらの値は /etc/default/LifeKeeper 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ適応タイミング	備考
REMOTETIMEOUT	他のマシンから予測される応答がくる前に"lcdsendremote"機能により送信要求処理をするための時間です。この時間を経過しても応答がない場合は、代替の経路(利用可能な場合)での処理を試みます。この値によってタイムアウトと判定された場合には、リソース切り替えに失敗します。常にタイムアウトが発生するような環境である場合には、この値を伸ばすことによって対応する場合があります。	整数値	900	LK起動時	
CONFIRMSODEF	フェイルオーバー確認を設定している時、マシンのフェイルオーバー処理で行われるデフォルト動作を指定します。デフォルト動作は、タイムアウトの間 (CONFIRMSOTOを参照してください)に管理者から手動で応答がない場合のみ、行われます。	0: フェイルオーバーを続行します。 1: フェイルオーバーをブロックします。	0	適宜	[Confirm Failover] と [Block Resource Failover] の設定を参照してください。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイ ミング	備考
CONFIRMSOTO	フェイルオーバー確認を設定している時、管理者からの指示が行われるまでの待機時間を秒単位で指定します。タイムアウト時間が経過すると、CONFIRMSODEFで指定したデフォルト動作が行われます。そうでなければ、管理者が指示した動作を実行します。	整数値	600	適宜	マシンのフェイルオーバーの処理は管理者からの確認を受け取るか、タイムアウト時間が終了するまで遅延します。 [Confirm Failover] と [Block Resource Failover] の設定を参照してください。
FAILFASTTIMER	ローカルシステムによってSCSI RESERVEコマンドによりデバイスにリザーブをかける間隔です。リザーブを失った場合は、システムは停止、再起動します。	整数値	5	LK起動時	
SCSIERROR	SCSIデバイスをオープンできない、接続できない、あるいは他のSCSIエラー(タイムアウト等)が発生したときの動作を決定します。	event: スイッチ オーバ halt: データの 破損を 避ける ため即 時強制 停止、 強制再 起動	event	LK起動時	SCSIリザーベーションが失われた場合は、本パラメータの設定にかかわらず常に停止になります。
LKCHECKINTERVAL	アプリケーションの監視をする間隔を秒単位で指定します。値を0にした場合、監視が無効になります。	0または 1以上の 整数値	120	LK起動時	

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
FILESYSFULLWARN	LifeKeeperログに警告メッセージを出力し始める、ファイルシステム使用量の閾値を指定します。0を設定した場合、監視が無効になります。	整数値	90	適宜	
FILESYSFULLERROR	LifeKeeperログにエラーメッセージを出力し始める、ファイルシステム使用量の閾値を指定します。 さらに、この閾値に達した時にはLKROOT/events/filesys/diskfull/notify スクリプトが呼び出されます。 0を設定した場合、監視が無効になります。	整数値	95	適宜	
LK_TRAP_MGR	SNMPトラップを受けるネットワークを指定します。この値を指定していない場合は、SNMPトラップの送信は行いません。	文字列	(未設定)	適宜	/opt/LifeKeeper/bin/lk_configsnmpを使用して、この値を設定できます。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイ ミング	備考
LK_NOTIFY_ALIAS	<p>LifeKeeperクラスターが特定のイベントが発生したときに通知するメッセージを受けとるために使用するEmailアドレスまたはアドレスリストです。値を指定していない場合は、通知を行いません。使用例は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LK_NOTIFY_ALIAS=通知を行いません。 ・LK_NOTIFY_ALIAS=user1@domain1 domain1のuser1に通知を行います。 ・LK_NOTIFY_ALIAS=user1@domain1,user2@domain1 domain1のuser1、user2に通知を行います。 	文字列	(未設定)	適宜	/opt/LifeKeeper/bin/lk_confignotifialias を使用して、この値を設定できます。
LKSYSLOGTAG	syslog出力時に使用するタグ名です。	文字列	LikeKeeper	LK起動時	
LKSYSLOGSELECTOR	syslogのファンリティです。	user, daemon, local0, local1, ...または local7	local6	LK起動時	

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイ ミング	備考
LCMHBEATTIME	LifeKeeper クラスタ内のすべてのノードにハートビートメッセージを送るのに使用されるハートビート間隔を秒単位で指定します。ハートビートリクエストは、ノードがALIVEで通信可能かどうか決定するのに使用されます。	整数値	5	LK起動時	0を設定すると、デフォルト値が設定されます。詳細はテクニカルドキュメンテーション「 LifeKeeper ハートビートの調整 」を参照してください。
LCMNUMHBEATS	コミュニケーションパスが切断していると判断するまでに許容されるハートビートの連続失敗回数を指定します。	整数値	3	LK起動時	0を設定すると、デフォルト値が設定されます。詳細はテクニカルドキュメンテーション「 LifeKeeper ハートビートの調整 」を参照してください。
LC_MESSAGES	言語環境を変更します。	文字列	C	LK起動時	値を変更する場合、LifeKeeper の動作に悪影響を及ぼす可能性があることに注意してください。悪影響は、メッセージカタログがさまざまな言語とユーティリティに対応してインストールされているかどうか、および LifeKeeper が予期していないテキスト出力をそれらが生成するかどうかによって異なります。
GUI_WEB_PORT	LifeKeeper Management Web servers (lkGUI) に使用されるポートを指定します。	整数値	81	steeleye-lighttpd再起動	steeleye-lighttpdの再起動方法： /opt/LifeKeeper/sbin/sv restart /opt/LifeKeeper/etc/service/steeleye-lighttpd
API_SSL_PORT	LifeKeeper APIで使用するポートを指定します。	整数値	778	steeleye-lighttpd再起動	steeleye-lighttpdの再起動方法： /opt/LifeKeeper/sbin/sv restart /opt/LifeKeeper/etc/service/steeleye-lighttpd

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
LOGMGR_LOGLEVEL	Generic Applicationのログレベルを指定します。	LK_ INFOま たは LK_ ERROR	LK_ ERROR	LK 起動 時もしくは lk_ logmgrプ ロセスの 再起動	

EC2パラメーター一覧

下記の表は、EC2パラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は `/etc/default/LifeKeeper` 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメーター 適応タイミ ング	備考
EC2_RESTORE_TIMEOUT	リソースのリストアタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	300	適宜	
EC2_REMOVE_TIMEOUT	リソースを停止するタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	300	適宜	
EC2_RECOVER_TIMEOUT	ローカルリカバリのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	300	適宜	
EC2_QUICKCHECK_TIMEOUT	quickCheckのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	100	適宜	
EC2_MAX_RETRY	リソースの動作または EC2 API のコマンドが失敗した場合のリトライ回数を指定します。	整数値	3	適宜	
IP_NOLINKCHECK	保護対象のネットワークインターフェースのリンクチェックを無効に設定します。	0: 有効 1: 無効	0	適宜	本パラメーターは Elastic IP を保護しているときにのみ適用されます。
IP_WAIT_LINKDOWN	保護対象のネットワークインターフェースをダウン状態にしてからアップ状態に戻すまで待機する秒数を指定します。一部の環境では、この2つの動作の間に待機時間が必要です。	整数値	5	適宜	本パラメーターは Elastic IP を保護しているときにのみ適用されます。
IP_MAX_LINKCHK	リンクが修復されてからアップ状態に戻るまで待機する最大時間を秒単位で指定します。一部の環境では、この値を増加する必要があります。	整数値	5	適宜	本パラメーターは Elastic IP を保護しているときにのみ適用されます。

IPパラメータ一覧

下記の表は、IPパラメータ名とその意味を説明しています。これらの値は /etc/default/LifeKeeper 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
IP_PINGTRIES	IPヘルスチェック実行時のpingのリトライ数を指定します。	整数値	3	適宜	
IP_PINGTIME	LifeKeeperがIPヘルスチェック時に、pingの応答を待つ時間を秒単位で指定します。	整数値	1	適宜	ブロードキャスト ping の代わりに手動で設定した Ping List を使用する場合、この値を3秒以上に設定しても効果は得られません。Linux の TCP/IP の実装では、Ping List コマンドにタイムアウト値を設定したとしても、3秒以上応答を受け取れない場合は常に、「Destination Host Unreachable」エラーを返すためです。
NOIPUNIQUE	IPリソースをIn Serviceにする時、同じIPアドレスがネットワーク上に存在していないかチェックする機能を無効に設定します。デフォルトでは、LifeKeeperはIPアドレスが他のネットワーク上で使用されていないかどうか確認します。	0: 有効 1: 無効	0	適宜	
NOBCASTPING	IPリソースのヘルスチェック時のブロードキャスト pingメカニズムを無効に設定します。	0: 有効 1: 無効	0	適宜	

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
IP_NOLINKCHECK	IPヘルスチェック実行時にリンク状態を確認する設定を無効に設定します。	0: 有効 1: 無効	0	適宜	
IP_MAX_LINKCHK	リンクが修復されてからアップ状態に戻るまで待機する最大時間を秒単位で指定します。一部の環境では、この値を増加する必要があります。	整数値	5	適宜	
IP_WAIT_LINKDOWN	保護対象のネットワークインターフェースをダウン状態にしてからアップ状態に戻すまで待機する時間を秒単位で指定します。一部の環境では、この2つの動作の間に待機時間が必要です。	整数値	5	適宜	

MDパラメーター一覧

下記の表は、MDパラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は `/etc/default/LifeKeeper` 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメーター 適応タイミ ング	備考
MD_ASSEMBLE_ OPTIONS	mdadm --assembleで使用するユーザ定義オプションを設定します。	文字列	(未設定)	適宜	Software RAID (md) Recovery Kitドキュメンテーション「 Software RAID Recovery Kitの注意事項と制約事項 」を参照。

MQパラメーター一覧

下記の表は、MQパラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は /etc/default/LifeKeeper 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメーター 適応タイミ ング	備考
MQS_QUICKCHECK_ TIMEOUT_SC	サーバ接続チェックのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	10	適宜	
MQS_QUICKCHECK_ TIMEOUT_CC	クライアント接続チェックのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	10	適宜	
MQS_QUICKCHECK_ TIMEOUT_PUTGET	PUT/GETチェックのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	10	適宜	
MQS_QUICKCHECK_ TIMEOUT_PS	publish/subscribe の使用有無チェックのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	5	適宜	
MQS_QUICKCHECK_ TIMEOUT_CLUSTER	キューマネージャが WebSphere MQ クラスタの一部であるかどうかチェックするタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	5	適宜	
MQS_QUICKCHECK_ TIMEOUT	quickCheck スクリプトのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	40	適宜	10以下を設定した場合はデフォルト値が設定されます。
MQS_QMGR_START_ TIMEOUT	キューマネージャの起動コマンド完了のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	60	適宜	
MQS_CMDS_START_ TIMEOUT	コマンドサーバの起動コマンド完了のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	30	適宜	
MQS_LISTENER_ START_TIMEOUT	リスナーの起動コマンド完了のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	30	適宜	

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
MQS_LISTENER_LIST_TIMEOUT	リスナーの list コマンド完了のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	10	適宜	
MQS_CHECK_TIMEOUT_ACTION	サーバ接続チェック、またはクライアント接続チェックがタイムアウトになった場合のアクションを指定します。	ignore: ログに記録するが、リカバリは行わない sendevent: ローカルリカバリを行う	ignore	適宜	
MQS_LISTENER_CHECK_DELAY	リスナーの起動から、リスナー正常起動チェックを行うまでの時間を秒単位で指定します。デフォルト値で、使用状態のポートを検出するのに十分です。	整数値	2	適宜	
NO_AUTO_STORAGE_DEPS	MQ リソース階層作成の間、キューマネージャとログストレージディレクトリに、共有ストレージの確認とファイルシステムリソースの作成を行うかどうか決定します。 本パラメータを 0 に設定すると、これらのタスクが実行されます。1 に設定すると、これらのタスクを回避します。	0 または 1	0	適宜	
MQS_DSPMQVER_TIMEOUT	dspmqver コマンド (WebSphere MQ のバージョンを知るために必要) のタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	5	適宜	2以下を設定した場合はデフォルト値が設定されます。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
MQS_SKIP_CRT_MISSING_Q	<p>欠落したテストキューを自動で作成するかどうかを指定します。</p> <p>本パラメータを0に設定すると、欠落したテストキューは自動で作成されます。1に設定すると、このプロセスはスキップされます。</p>	0または1	0	適宜	
MQS_FORCE_CLEANIPC	<p>WebSphere MQ IPC の停止時のクリーンアップ動作を指定する。本パラメータに0を指定すると、クリーンアップ動作を行いません。</p>	0または1	0	適宜	
MQS_IGNORE_CLEANIPC_EXITCODE	<p>WebSphere MQ IPC の終了コードクリーンアップ動作を指定する。本パラメータに0を指定すると、終了コードを保持します。</p>	0または1	0	適宜	

NFSパラメーター一覧

下記の表は、NFSパラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は `/etc/default/LifeKeeper` 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメーター 適応タイミ ング	備考
FAILOVERNFSLOCKS	NFS v2/v3 エクスポートのファイルロックのフェイルオーバーを有効にします。	true: 有効 false: 無効	false	適宜	NFS v4ではロックフェイルオーバーが自動的に発生するためこの設定は要求されません。 パラメーターは、SuSE Enterprise Linux 上では適用できません。
RESTARTMOUNTD	NFSリストア時にrpc.mountの停止と再起動を行います。	true: 有効 false: 無効	true	適宜	

Oracleパラメータ一覧

下記の表は、Oracleパラメータ名とその意味を説明しています。これらの値は /etc/default/LifeKeeper 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
ORACLE_ORATABLOC	oratabファイルのある別のディレクトリを指定します。 デフォルトでは、/etc/oratab が使用されます。	文字列	/var/opt/oracle	適宜	
LK_ORA_NICE	最大許容接続に達した時に、原因となるデータベース接続障害に対してリカバリを試みるかどうかを指定します。 最大許容接続に達した時のリカバリの実行は、スタンバイノードへのフェイルオーバーの原因となることがあります。	0: リカバリ実行 1: リカバリ回避	0	適宜	

PostgreSQLパラメーター一覧

下記の表は、PostgreSQLパラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は `/etc/default/LifeKeeper` 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメーター 適応タイ ミング	備考
LKPGSQL_KILLPID_ TIME	プロセスIDが停止した後、そのプロセスに対する再チェックを行うまでの時間を秒単位で指定します。	整数値	3	適宜	デフォルト値より小さい場合は、デフォルト値が設定されます。
LKPGSQL_CONN_ RETRIES	旧 LKPGSQLMAXCOUNT - 操作（開始もしくは停止）を行った後、クライアント接続を試みる回数を指定します。	整数値	12	適宜	デフォルト値より小さい場合は、デフォルト値が設定されます。
LKPGSQL_ACTION_ RETRIES	アクションコマンドに失敗するまで、開始と停止を試行する回数を指定します。	整数値	4	適宜	デフォルト値より小さい場合は、デフォルト値が設定されます。
LKPGSQL_STATUS_ TIME	status コマンドのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	17 + (3 * LKPGSQL_ KILLPID_ TIME)	適宜	デフォルト値より小さい場合は、デフォルト値が設定されます。
LKPGSQL_QCKHANG_ MAX	データベースインスタンスがフェイルオーバー/ sendevent を発生させるまでに許容される、quickCheckがハングする回数を指定します。	整数値	2	リソース作成時	1より小さい場合は、デフォルト値が設定されません。
LKPGSQL_CUSTOM_ DAEMON	postgres デーモン (postgres.bin, postmaster, postgres, edb-postgres) に対する追加の別名の指定を許可します。	文字列	(未設定)	リソース作成時	

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイ ミング	備考
LKPGSQL_IDIRS	旧 LKPGSQL_IPORTS - immediate オプションのみを使用してシャットダウンするインスタンスに対する datadir のエントリを含みます。	文字列	(未設定)	適宜	
LKPGSQL_SDIRS	Smart オプションを使用してシャットダウンするインスタンスに対する datadir のエントリを含みます。	文字列	(未設定)	適宜	
LKPGSQL_ DISCONNECT_CLIENT	データベースに障害が発生している間の PostgreSQL リソース階層の振る舞いを制御します。本パラメータを有効にすると、クライアントプロセスに SIGTERM シグナルが送信され、データベースから強制的に切断されます。この処置は、postmaster プロセスがローカルリカバリ中に稼働していない場合のみに取ることができます。	0: 無効 1: 有効	1	適宜	PostgreSQL 8.2以降では、本パラメータをご利用いただけません。
LKPGSQL_ DISCONNECT_ CLIENT_BYTAG	LKPGSQL_DISCONNECT_CLIENT と類似していますが、この設定は、処置をこの設定項目で指定したカンマで区切られたタグのリストに限定します。	文字列	(未設定)	適宜	PostgreSQL 8.2以降では、本パラメータをご利用いただけません。
LKPGSQL_RESUME_ PROC	プロセスの停止状態の検出時 (プロセス状態が T)、再開するか無視するかを決定します。	0: 無視 1: 再開	1	適宜	
LKPGSQLDEBUG	PostgreSQL database kit および postgres データベースのデバッグを有効にします。0 ~ 5 の値が有効です。 この設定項目は、オプション -d <LKPGSQLDEBUG> を使用して postmaster データベースへと渡されます。	0~5の整数値	0	適宜	設定可能な値でない場合は、デフォルト値が設定されます。

Quorumパラメータ一覧

下記の表は、Quorumパラメータ名とその意味を説明しています。これらの値は `/etc/default/LifeKeeper` 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメータ名	パラメータの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイミ ング	備考
QUORUM_MODE	quorum モードを指定します。	majority tcp_remote none または off	majority	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 Quorum/Witness 」を参照。
QUORUM_HOSTS	リモートホスト名を指定します。このパラメータは、QUORUM_MODE が tcp_remote の場合のみ、適用されます。	文字列	(未設定)	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 Quorum/Witness 」を参照。
WITNESS_MODE	witness_remote_verify モードを指定します。	remote_verify none または off	remote_verify	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 Quorum/Witness 」を参照。
QUORUM_TIMEOUT_SECS	tcp/ip 監視接続を完了するためのタイムアウト時間を秒単位で指定します。この時間内に接続が完了しない場合は、失敗、または使用不可となります。このパラメータは、QUORUM_MODE が tcp_remote の場合のみ、適用されます。	整数値	20	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 Quorum/Witness 」を参照。
QUORUM_LOSS_ACTION	quorum が失われた場合の動作を指定します。	fastkill fastboot osu	fastboot	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 Quorum/Witness 」を参照。
QUORUM_DEBUG	デバッグモードを指定します。	0: 無効 1: 有効	0	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 Quorum/Witness 」を参照。

SAPパラメーター一覧

下記の表は、SAPパラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は `/etc/default/LifeKeeper` 設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメータ 適応タイ ミング	備考
SAP_CONFIG_REFRESH	Configuration Propertiesページの更新頻度を秒単位で指定します。	整数値	LKCHECKINTERVAL/2	適宜	5より小さい場合は、デフォルト値が設定されます。
SAP_CREATE_NAS	NAS マウントされたファイルシステムのNASリソースを自動的に生成するかどうかを指定します。	0: 無効 1: 有効	1	適宜	
SAP_QUICKCHECK_TIMEOUT	quickCheckのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	60	適宜	
SAP_RESTORE_TIMEOUT	restoreのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	1048 + SAP_QUICKCHECK_TIMEOUT	適宜	
SAP_REMOVE_TIMEOUT	removeのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	540 + 2 * SAP_QUICKCHECK_TIMEOUT	適宜	
SAP_RECOVER_TIMEOUT	recoverのタイムアウト時間を秒単位で指定します。	整数値	SAP_RESTORE_TIMEOUT + SAP_REMOVE_TIMEOUT	適宜	デフォルト値より小さい場合は、デフォルト値が設定されます。
SAP_DEBUG	デバッグを有効にするかどうかを指定します。	0: 無効 1: 有効	0	適宜	

DataKeeperパラメーター一覧

下記の表は、DataKeeperパラメーター名とその意味を説明しています。これらの値は/etc/default/LifeKeeper設定ファイルを編集することにより設定可能です。

パラメーター名	パラメーターの意味	設定値	デフォルト値	パラメーター 適応タイミ ング	備考
LKDR_CHUNK_SIZE	bitmapのチャンクサイズをKB単位で指定します。	整数値	256	リソース作成時	
LKDR_SPEED_LIMIT	同期に使用する最大帯域幅を指定します。可能な最大速度で再同期が実行されるように、この値を十分高い値に設定する必要があります。	整数値	50000	リソース再起動	
LKDR_SPEED_LIMIT_MIN	同時に他のI/Oが実行されているときに許可する再同期の速度を指定します。同期の実行時に通常のI/O動作が妨げられないようにするには、経験則として、この値をドライブの最大書き込みスループットの半分以下に設定する必要があります。	整数値	20000	リソース再起動	
LKDR_ASYNC_LIMIT	非同期ミラーリングを作成するときのターゲットデバイスへの書き込みキューの値を指定する。本パラメーターに1を設定した場合はデフォルト値となります。	整数値	256	リソース作成時	
LKDR_NO_FULL_SYNC	新しく追加されたターゲットの強制全同期を抑制します。	0: 抑制しない 1: 抑制する	0	適宜	詳細はテクニカルドキュメンテーション「 全同期の回避 」を参照。